令和７年度「人権教育研究推進事業」総合推進地域事業

都道府県・指定都市名（　鹿児島県　）

１．基本情報

推進地域名	南種子町

○推進地域市区町村教育委員会名

南種子町教育委員会

○これまでの研究指定等の状況

令和６年度「人権教育研究推進事業」総合推進地域事業

○推進協力校

・南種子町立花峰小学校
　学　級　数：４学級（うち特別支援学級１学級）
　児童生徒数：１５人

・南種子町立長谷小学校
　学　級　数：４学級（うち特別支援学級１学級）
　児童生徒数：２４人

・南種子町立南種子中学校
　学　級　数：７学級（うち特別支援学級２学級）
　児童生徒数：１３０人

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	人とのつながりを大切にし、自ら感じ、考え、表現する子どもの育成 ～一人一人が安心を感じられる学校づくりを通して～

○調査研究のテーマを設定した目的

　種子島南部に位置する南種子町は、日本で初めて鉄砲が伝来した土地であり、日本唯一の大型ロケット発射場を有するＪＡＸＡの宇宙センターが設置された、歴史と最先端技術が同居する町である。町内には小学校が８校、中学校が１校あり、宇宙留学制度（山村留学制度）を取り入れながら、地域の特色を生かした教育活動を展開して

いる。
　今回推進協力校に指定する花峰小学校（以下、「協力校」という。）は、南種子町の南部に位置し、４年単式、１・２年、５・６年は複式の各１学級、特別支援学級１学級の計４学級で、全児童 15 人の小規模校である。南種子町で実施している宇宙留学制度を利用し、今年度は２都県から５人の留学生を受け入れている。毎年、全児童の約 50%が留学生であることから、児童の人間関係の構築は様々な教育活動を行うに当たって重要となる。
　協力中心校は、田園地帯が広がる地域にあり、豊作を祈願する「御田植え祭り」や豊作に感謝する「ヤートセー」、「ひょうたん踊り」などの郷土芸能が、現在まで大事に継承されている。また、1894（明治 27）年、校区の前之浜に座礁して漂着したイギリス貿易船の乗組員を校区民が救出し、船の修理が終わるまで約２か月間手厚くもてなした歴史がある。このことは、「ドラメルタン号漂着の物語」として、地域の人たちにとって特別な思いで語り継がれている。
　地域の先人たちは、肌や髪・目の色の違い、言葉や文化の違いを越え、目の前の人を助けたいという思いで行動した。児童は、このような先人の生き方や、後世に語り続けていってほしいと願う地域の人たちの思いを総合的な学習の時間等で学習している。
　そこで、本事業を展開する際の最重要人権課題を「アイヌの人々」とし、アイヌの人々の歴史や厳しい差別や偏見に屈することなく自分たちの文化を継承してきた先人の生き方等を学ぶことを通して、本校区の人々が大事にしてきた、民族の違いにとらわれず助け合う生き方をはじめ、大事に継承してきた文化や芸能についても再認識するとともに、人権尊重に係る学びを深めていけるのではないかと考えた。
　また、研究テーマにある、人とのつながりを大切にし、自ら感じ、考え、表現する活動を地域一体となって展開することで、人権が風習や習慣などにより侵害されている状況に気付いたり、様々な人権課題を自分事として受け止めたりすることができる児童生徒を育成できると考えた。さらに、自分のみならず他者のよさも認めることができる児童生徒の育成にもつながると期待し、本テーマを設定した。
　協力中心校は、令和６年度、南種子町人権同和教育研修会の会場校として、様々な教育活動を人権教育の視点に立って見直し、実践してきた。その実践を通して、教職員は、本県が推奨している児童生徒と関わる際の基本姿勢である「見つめる　思いをめぐらす　向き合う（Ｍｏｍ）」ことを大切にして指導や言葉掛けをしてきた。また、児童は様々な学習等の振り返りの場面でお互いのよさを認め合う様子が増えるなど人権感覚が高揚した姿が見られるようになった。令和５年度から研究を続けてきた外国語・外国語活動の学習や異文化理解とも関連付けて、更に学びを深めていくことで、自分と相手の違いを認め、自分も含めた地域の方々を大切にする気持ちや態度を育成したいと考えた。
　併せて、協力中心校の取組やその成果を南種子町内の全学校に普及させるためにも令和６年度推進協力中心校の長谷小学校や令和７年度南種子町人権同和教育実践校の南種子中学校と連携した取組を展開し、町全体の人権教育・啓発の推進につなげたい。

〇調査研究の概要

　学校・家庭・地域が一体となって自他共に認め合うことができる子どもを育てるために、「子供の人権」学習を基盤とした様々な仲間づくりや子供の権利等の理解に向

けた家庭・地域への啓発を調査研究の柱とした。さらに、人とのつながりを大切にし、様々な人権課題を自分事として受け止めることができる子どもを育てるために、「アイヌの人々」と地域に根付く「助け合いの精神」を関連付けた学習や公共の一員としての自覚につながる高齢者とのふれあい学習等についても研究の柱に据え、調査研究を行った。

〇指定理由

推進地域の南種子町は、様々な地域からの移住者を受け入れ、共生してきた歴史がある。また、大型ロケット初射場を有し、ＪＡＸＡ職員など多くの転入者を受け入れている。特に、宇宙留学生（山村留学生）を全国各地から積極的に受け入れており、多様な人々が協力して生活することを大切にしている。令和６年度には、本事業を活用して、全ての小・中学校の管理職、協力校の教職員を対象に、北海道平取町立二風谷小学校長からオンラインによる講演をいただき、地域文化継承への思いを踏まえた教育活動について考える契機となった。

推進協力校の中核である花峰小学校では、令和６年度に南種子町人権同和教育研修会の会場校として、実践発表や授業公開を行った。この１年間の様々な実践を通して、教職員や児童は人権に関する知的理解を深め、人権感覚を磨いてきた。令和７年度は、これまでに外国語・外国語活動で学んできた異文化理解や地域の歴史と関連させて、「外国人の人権」を引き続き取り扱うとともに、「アイヌの人々」の人権も重点課題に設定し、地域の歴史や人々の生き方との関連も深めながら、学校・家庭・地域が一体となった人権教育の在り方について研究したいと考えた。

長谷小学校は、令和６年度に「アイヌの人々」を主要な人権課題に位置付け、アイヌの人々の生き方に学びながら、入植者によって培われた地域の文化や伝統を見つめ直すとともに、今後も大切にしていこうとする心を育成する教育活動を実践してきた。その成果として、アイヌの人々同様、自分たちの郷土の文化を切り拓いてきた先人の生き方に尊敬の念を高め、郷土に対する誇りをこれまで以上に高めることができた。また、保護者や地域の人々は、今後も地域の文化を継承し、児童に伝えていこうとする意識が高まってきている。

南種子中学校には町内全ての児童が進学しており、宇宙留学生（山村留学生）も在籍している。生徒会が「南中いじめ撲滅宣言」を制定しており、これまでに「鹿児島県いじめ問題子供サミット」で代表生徒が取組を発表するなど、活動の充実を図ってきた。

このように、地域が一体となって人権教育を推進できる素地が整っていることから、推進地域に指定した。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	〇
② 女性	〇
③ 高齢者	〇
④ 障害者	〇
⑤ 同和問題	
⑥ アイヌの人々	◎
⑦ 外国人	〇
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	〇
⑬ 性的指向、性自認	〇
⑭ その他（　　）	

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

ア　現状と課題

南種子町の全ての地域が学校に対して協力的で期待を抱いている。また、宇宙留学制度は令和７年度に 30 期を迎える歴史があり、留学生とその家族に対する受け入れ体制は整っている。しかしながら、近年は、受け入れ地域や学校が県外との文化や生活の違いに戸惑いを感じる傾向が見られるようになってきた。

イ　調査研究の内容

これらの現状や課題を踏まえ、調査研究を進めるに当たり、以下のとおり仮説を設定した。

人とのつながりを大切にし、自ら感じ、考え、表現できる児童生徒を育成するために、学校・家庭・地域が一体となって人権に関する知的理解を深める活動を充実し、学んだことを他者に伝える活動を意図的に設定することによって、児童生徒・教職

員・保護者・地域住民が人権について正しく認識し、理解を深め、人権感覚を高めることができるのではないか。

そこで、推進地域において、以下のことに取り組ませた。

○　校区の文化を築いてきた高齢者との交流を通して、大切にしてきた思いや願いを知るとともに、ふるさとや自分の家族を誇りに思う気持ちを育み、自分の大切さに改めて気付くことで、自他の人権を守ろうとする実践行動ができる児童生徒を育成する。

○　様々な人権課題について学ぶ中で、アイヌの人々が育んできた歴史や文化と、自分の町の歴史や文化の共通点や相違点を学び、ふるさと種子島の捉え直しをする。

○　学校関係者による人権教育推進委員会や、地域住民等を交えた人権教育総合推進会議を設置し、推進協力校の取組を地域全体に広げる。

県教育委員会は、以上の取組に対して、適宜情報提供するとともに、南種子町教育委員会と連携し、推進体制や進捗状況の確認及び指導を行った。

○実施方法（※推進協力校の花峰小学校の実施を中心に記載）

ア　「アイヌの人々」と地域に根付く「助け合いの精神」を関連付けた学習

総合的な学習の時間に、アイヌの人々が自分たちの文化を守り継承してきたことを、校区下中の歴史等と重ねて考える学習をした。その中で、北海道平取町立二風谷小学校の遠山校長から「アイヌの人々」に関する歴史や現状、アイヌ文化継承に係る学習内容等について講話（オンライン）をいただいた。そこでは、アイヌの生活の知恵や素晴らしい文化とともに、差別を受けながらも伝統や文化を守ってきたアイヌの人々の生き方を学んだ。

また、公益財団法人アイヌ民族文化財団の学習資料やアイヌの人々に関する書籍等を活用し、児童の興味・関心に応じて設定した学習課題を基に、衣服、食べ物、歌や踊り等の調べる学習を行った。その後、「自分たちの住んでいる下中はどうだろう。」という新たな課題設定から、イギリスの帆船ドラメルタン号やインギー鶏、伝統芸能等、下中校区に受け継がれているものを調べる学習へとつながった。アイヌの人々が様々な辛苦を味わいながらも自分たちの文化を守り続けてきたことを学ぶことを通して、下中校区の人々が大事にしてきた民族の違いにとらわれず助け合う生き方をはじめ、大事に継承してきた文化や芸能についても学びを深めてきたことで、歴史は人々が生きてきた証であるということを学ぶ機会となった。

学習のまとめとして、学んだことを保護者や地域住民に向けて発表する場を学習発表会に設け、地域文化を継承していこうという児童の思いを発信することができた。

イ　「子供の人権」学習を基盤とした様々な仲間づくり

児童の人権感覚を高めることを目的に、学期に１回人権集会を実施した。また、毎月、職員が交代で担当する仲間づくりの活動を行う「花峰タイム」も実施した。子供の人権の学習と関連付けながら、これらの活動を行うことで、教児共に「違いを個性と捉え、自分たちもお互いを大切にしたい。」という思いをもつことができた。

友達のよいところを見つけて手紙に書き、互いに手紙を渡し合う「よいとこみっけ」カードや、うれしかったことやありがとうの気持ちをカードに書いた「こころの木」という活動を行った。さらに、１・２年生は、シンガポールの日本人学校の１年生とオンラインでつなぎ交流を行い、下中のよさを伝える交流活動を行った。

上記のような参加体験型学習を通して、他校の児童と積極的に交流したり、異年齢集団による共有体験を重ねたりし、自尊感情や相手を思いやる心を育てられるようにした。

ウ　公共の一員としての自覚につながる高齢者とのふれあい学習

高齢者の人権の学習と関連付けながら、児童と校区に居住する高齢者のふれあい活動を推進したことで、地域の先輩たちを尊重し、大切にしようとする思いが児童に育まれた。学校行事には、地域の高齢者をはじめ地域住民を招待しており、児童の学びの姿を参観していただくとともに、学校の人権に関する取組を積極的にアピールした。

地域の伝統芸能のである御田植え祭りやひょうたん踊りなどを地域下中の先輩方から直々に教えていただく活動を行うことで、下中を愛する心も受け継いでいる。11 月に行われた「ふるさと祭り」では、地域の方と一緒にひょうたん踊りを披露した。児童は、文化や伝統を受け継ぐ活動の中で、地域の方との繋がりを感じることができた。

また、高齢者による児童の学習や活動の参観を実施したことで、高齢者も児童も地域の一員として、地域の歴史や文化をこれからも丁寧に伝え続けていこうという意欲を高めていた。

エ　人権に関する知的理解を深めるための家庭・地域への啓発

毎月の学校便りや学期に２回の人権便り等で、「子どもの権利条約の４原則」等の人権に関する知的理解につながる記事を掲載したり、学校の人権教育の取組を紹介したりすることで、教職員や保護者、地域住民との間で、記事のことが話題になるなど人権意識の高揚や人権尊重の意識向上を図ることができた。

学習発表会や人権に関する講演会の家庭教育学級、二風谷小学校とのオンライン交流等に保護者や地域の方の参加を促し、学校・家庭・地域が連携して、自他を大切にできる児童の育成に取り組むことができた。

オ　教職員の人権教育に係る学びの平準化に向けた学校間の連携

北海道平取町立二風谷小学校とのオンラインによる交流学習や県教育庁人権同和教育課指導主事による人権教室を実施する際、町内の小・中学校にも周知し積極的な参加を促した。

南種子町人権教育研修会を推進協力校の一つである南種子中学校で開催し、特別の教科　道徳の研究授業や授業研究を通して、人権教育の在り方について学びを深めることができた。

また、県教育庁人権同和教育課指導主事を講師とした校内研修を複数校合同で実施するなど、教職員の人権教育に係る学びを平準化した。

○検証・評価・改善・普及

ア　検証・評価

(ｱ)　児童の変容 実施対象者：南種子町立花峰小学校（推進協力校）全校児童

（「学校楽しぃーと」による　自己肯定感の高まり　４段階）

（4:とてもそう思う 3:少しそう思う 2:あまりそう思わない　1:全くそう思わない）

＼	質　問	令和 6 年 （13 人）	令和 7 年 （15 人）
1	じぶんなりのよいところがある 【価値的・態度的側面】	3.4	3.8

2	よくがんばったなあと思うことがある 【価値的・態度的側面】	3.3	3.9

(ｲ)　地域の変容　実施対象者：南種子町立花峰小学校学校評議員
学校教育に関するアンケート　４段階
（４：十分　３：ほぼ十分２：やや不十分　１：不十分）

＼	質　問	令和７年 (6月)	令和７年 (11月)
1	学校の人権同和教育に関する取組は、地域に周知され、人権に関する意識を高めている	3.6	4.0

【自由記述から】
- 花峰小学校では、子供たちの人権意識を高めるための様々な取組をしていることが分かりました。
- 身の回りの人権問題に関心をもち、考えるきっかけになりました。
- 「差別はされる側ではなく、する側に問題がある。」という言葉が強く心に残りました。

(ｳ)　職員の変容　実施対象者：南種子町立花峰小学校職員
（人権尊重の精神に立った学校づくりのために　点検・評価　４段階）
(4:積極的に取り組んでいる 3:取り組んでいる 2:取組が不足している 1:取り組んでいない)

＼	質　問	令和７年 (4月)	令和７年 (11月)
1	お互いのよさを認め合い、互いに伸びる仲間づくり、安心できる学級づくり	3.7	4.0
2	様々な人権課題や人権教育についての正しい理解と認識の深まり、指導力の向上	3.4	3.8

(ｴ)　鹿児島学力・学習状況調査の児童生徒質問紙
４段階（４：そうだ　３：どちらかといえばそうだ　２：どちらかといえばそうではない１：そうではない）の各段階の割合（%）
【児童質問紙】実施対象者：南種子町内の全小学校５年生（８校 57 人）

＼	質　問	令和７年			
		4	3	2	1
1	自分にはよいところがある。 【価値的・態度的側面】	57.9	33.3	8.8	0
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	71.9	28.1	0	0

【生徒質問紙】実施対象者：南種子中学校２年生（37 人）　※ 無回答1人

＼	質　問	令和７年			
		4	3	2	1
1	自分にはよいところがある。 【価値的・態度的側面】	27.0	45.9	13.5	10.8
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	40.5	43.2	5.4	8.1

県学力・学習状況調査の児童生徒質問紙では、小学生は２つの質問とも、強肯定で答えており、自己肯定感が高く、教職員が児童生徒のありのままを見つめ、思い

をめぐらせながら向き合う姿勢を大切にしていることが伺える。
　しかしながら、中学生は「自分にはよいところがある。」という自己肯定感に関する質問については、肯定の割合が多いが、否定を選択している生徒が全国学力・学習状況調査の質問紙よりも多い状況にある。【価値的・態度的側面】

(オ)　その他

・　アイヌの学習を積極的に推進している北海道平取町立二風谷小学校長から講演をいただき、アイヌの人々が受けてきた差別の歴史や誇りをもって伝統・文化を守ってきた先達の生き方を学ぶことで、アイヌの人々の人権課題についての理解が深まった。【知識的側面】
　また、130 年以上も前に、言葉も通じない外国の船（ドラメルタン号）を助け、乗組員を数か月に渡って家でもてなし、そのお礼にもらった鶏に「インギー鶏」と名付けるとともに大切に種を保存してきた先人の行いは、自分たちのふるさとの誇りであるという思いを深めていた。【価値的・態度的側面】
・　学習のまとめとして、学んだことを保護者や地域住民に向けて学習発表会で発表する場を設定し、地域文化を継承していこうという思いを発信することができた。また、北海道平取町立二風谷小学校と相互に学習の成果を発表することができた。（オンライン）【技能的側面】
・　５・６年生は、特別の教科　道徳の時間に「ひらく」*を活用して奄美の歴史（犬田布一揆等）を学習した。その際に、差別の中で懸命に生きた人々の生き方と、アイヌの人々の生き方にも共通するものがあることに気付くことができた。【知識的側面】

＊　鹿児島県人権・同和教育研究協議会作成している自主教材

・　児童は、行事等に参加してくださる地域の方々との交流を通して、地域に支えられていることを感じることができた。校区合同運動会で行った伝統芸能の発表では、踊りの所作だけでなく、長く受け継がれてきた伝統芸能のよさや思いも直接教えていただくことで、自分たちが地域のよさや文化を引き継ぎ、伝えていこうとする意欲が高まってきた。【価値的・態度的側面】
・　４年生児童は、アイヌの文化についての学習後、夏季休業中に下中校区についての探究活動を行った。地域の方々に、昔の下中校区の様子や史跡等についてインタビューを行い、分かったことや思いをまとめて、他学年児童、保護者，地域の方々に発信することができた。【技能的側面】

イ　改善・普及

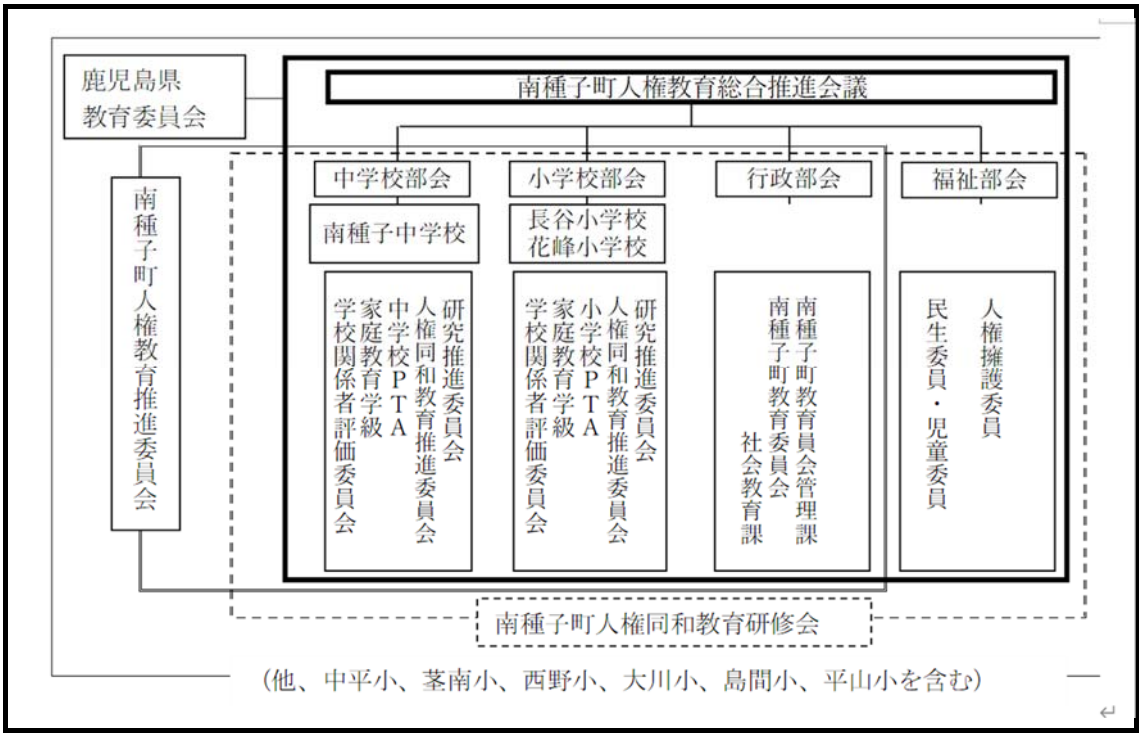
・　他校（二風谷小学校やシンガポールの日本人学校）との交流についても、日程調整を行いオンラインでスムーズに行うことができた。今後も、様々な地域との交流を行うことで自他共に認め合い、人とのつながりを大切にする心を育てていきたい。
・　児童生徒は、アイヌの人々の生き方と、自分たちの地域の歴史を重ねて考える学習を通して、地域の先達が刻んできた歴史があって今の自分たちの生活が成り立っていることを再認識することができた。この学びをこれからの自分の生き方に生かし、他者に発信していく学びへと広げていきたい。
・　人権尊重の視点を踏まえた授業づくりや仲間づくりの取組などを充実させるとともに、児童生徒のありのままの姿を認め、それぞれのがんばりを称賛するなど、教職員のＭｏｍ（モム：見つめる、思いをめぐらす、向き合う）の姿勢を大切にし、児童生徒の自己肯定感を高めていく。
・　より多くの保護者や地域住民が人権教育に関する研修会等へ参加できるよう、

地域の広報誌や各学校のホームページ、町教育委員会ホームページ等で周知するなど広報活動の工夫・改善をする。

・　オンライン研修会や広報誌、ホームページ等を活用した広報・啓発など、町全体として、持続可能な人権教育推進体制を構築できるよう継続した研究に取り組んでいく。

・　成果物等については、県教育委員会のホームページで公開し、広く情報発信する。

５．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



６．関連資料



北海道平取町立二風谷小学校長による「アイヌの人々」に関する歴史や現状、アイヌ文化継承に係る学習内容等についてのオンライン講話



特別の教科　道徳の時間（５・６年生）
奄美の歴史（犬田布一揆等）の学習



保護者や地域住民に向けて発表する場としての学習発表会



県教育委員会指導主事による人権教室（子どもの権利の理解）